地域情報ニュース「品川しゅく」第149号　音声読み上げ用

令和5年2月20日　品川第一地域センター　発行

電話番号03-3450-2000　ファックス番号03-3450-2026

今号は、特集を3つ掲載しています。

**特集1タイトル「旧東海道を駆け抜ける！　第12回東海道駅伝マラソン大会　令和4年11月27日(日)実施」**

秋晴れのもとで行われた『第12回東海道駅伝マラソン大会』の取材に行ってきました。

約3 年ぶりの開催を心待ちにしていた保護者をはじめ、学校関係者や町会自治会長など多くの方が応援に駆けつけました。

参加校は品川区立6小学校(浅間台小・城南小・台場小・御殿山小・城南第二小・品川学園)の４～6年生。準備体操を済ませると一気に真剣な面持ちに。緊張感が伝わります。

挿入画像1：駅伝をスタートする選手たちの写真

思い出フォトギャラリー(時系列順の写真)

挿入画像2：準備体操の写真

準備体操で身体を温めます。

挿入画像3：選手たちがスタートする写真

「位置についてよーい、ドン！」

挿入画像4：ゴールテープを切る瞬間の写真

無事にゴール！

挿入画像5：マラソン大会でゴールに向かう選手たちの写真

大会本番では、ゴールに向かって一生懸命に走る子どもたちの姿が観客の胸を打ちました。参加した子どもたちは、きっと良い思い出になったに違いありません。

　実行委員長を務めた蓮井貴志会長(城南第二PTA会長)によると開催に向けて約1年間準備されたそうです。大会老実の様子はYouTubeにて配信中です。ぜひご覧ください！

挿入画像6：各学校ののぼり旗の写真

**特集2タイトル「白熱！親子ボウリング大会＠品川プリンスホテル」**

令和4年12月17日(土)に、青少年対策品川第一地区委員会が主催する『親子ボウリング大会』が実施されました。

　3年ぶりのイベント開催に、応募が殺到しました。

　大会当日は、親子そろって熱い戦いが繰り広げられ、手加減なしの真剣勝負に！2ゲームでは足りないとおっしゃる方がいるほど、大盛況で幕を閉じました。その時の様子をたっぷりお伝えします！

挿入写真1：親御さんがお子さんの指導をしている写真

保護者の方が投げ方をレクチャー。ストライクを狙うべく真剣な表情で聞いているところをパシャリ。

挿入写真2：お子さんがストライクを取り、家族みんなで祝福している写真

見事ストライク！周りからの熱い拍手に親子そろって嬉しそうです。

挿入写真3：サンタさんが参加者のもとへ駆けつけた時の写真

サンタさんも駆けつけてくれました！子どもたちから「サンタさんこっちにもきて！」と大人気です。

挿入写真４：サンタさんから入賞者にトロフィーが授与される写真

表彰式では得点順だけでなく、飛び賞やブービー賞など様々な賞でボウリングの成果をお祝いしました。

見出し1：感謝

　『親子ボウリング大会』に参加してくださった皆さま、ありがとうございました。

今後も青少年対策品川第一地区委員会による様々な企画がありますので、楽しみにしていてください！

見出し2：Twitterもやっています！

　＠471＿chikuiinkaiで検索してください。

**特集3タイトル「品川蕪品評会」**

見出し1：品川蕪ってどんな野菜？～江戸時代から奇跡の復活～

　品川蕪は江戸時代に東海道品川宿の周辺地域で栽培されていた長蕪の一種で、江戸時代から始まる野菜の文化を継承し、当時の栽培方法や品種に由来する野菜である「江戸東京野菜」のひとつとして数えられています。農事などについて編纂された博物誌『形成図説』に描かれ、品川宿を代表する野菜だったと推測されますが、入植経路は諸説あり、定かではありません。

　見た目は大根に似て、越冬野菜として保存がきくことから、主に漬物などに加工され、当時の人々になじみある食材である一方、献上野菜でもありました。しかし、江戸時代には少しずつ消えていき、昭和初期ごろまでにはわずかながら存在していたようですが、戦前には完全に消えてしまいました。その復活を支えた一人が大塚好雄さんです。

見出し2：第9回　品川蕪品評会

　令和４年12月25日(日)に開催された品川第一地区の年末の風物詩である品川蕪品評会が、今年度で９回目を迎えます。この日は雲ひとつない青空で天気に恵まれました。３年ぶりに品川汁が振る舞われたほか、和太鼓の演奏会や講釈師による講談、サプライズゲストによる歌唱と盛りだくさんで、区外からも多くの方が参加しました。

　出品者のなかには、品川区内の学校関係者をはじめ、仙台からお越しの方まで幅広い地域の方々が出品し、蕪の種が随所に渡っていることを感じました。

　審査では品川学園が見事金賞に選ばれ、校長先生が児童と喜びを分かち合いました。銀賞には福栄会、銅賞には台場小学校、特別賞にはなんと仙台在住の方が受賞！話によると、お孫さんが品川区在学だそうで会場は驚きの声に包まれました！

見出し3：独占インタビュー　品川蕪復活者　大塚好雄(おおつか　よしお)さんにお聞きましました！

**Ｑ１）**なぜ品評会を開催しようと思われたのですか？

**Ａ１）**品評会を開催する前は「収穫祭」という名称で学校にて開催していました。子どもたちに品川蕪の歴史から育成方法、収穫に至るまで講義をし、品川区には土着の江戸東京野菜(品川ネギ、戸越タケノコなど)が存在することを伝えていました。そのなかで、より多くの方に品川野菜を知ってもらおうと「品評会」と名称を変え、品川蕪を起点に裾野(すその)を広げた活動を始めるに至ったのです。

挿入写真1：品川汁を作る様子の写真

挿入写真2：品評会に出品された蕪の写真

**Ｑ２）**今年度の品評会の感想をお聞かせください。

**Ａ２）**質の良い蕪が多くありましたが、出品者が少なかったように感じました。理由として、天候不順や宣伝不足があげられます。そのため、次回開催時は種の配布のみならず品川蕪の歴史や育成指導の講習会を試みることで、参加者が増えることを期待しています。

**Ｑ３）**今年度の品評会はどんな工夫をされましたか？

**Ａ３）**昨年度はコロナウイルス感染拡大防止の観点から【学校】と【一般】の2部制に分けて評価を行いました。一方、今年度は「みんなで」収穫を祝う目的のもと1部制にし、また個人として開催するのは最後になると考えたため、様々なゲストをお招きし、節目を意識した品評会にしました。

**Ｑ４）**区民の皆さんにお伝えしたいことはありますか？

**Ａ４）**品川蕪はプランターでも、小さな空き地でも作れますので、お時間があれば育ててみてほしいと思います。お野菜をお店で買うだけでなく、育てる経験をすることで、品川区の江戸東京野菜への関心につながると考えています。

　ぜひ、皆さんで品川蕪づくりを体験しましょう！例年９月ごろから種を配布予定です！

挿入写真3：品川汁配膳の写真

挿入写真4：品評会審査の様子の写真

地域情報ニュース「品川しゅく」第149号の内容は以上です。